



TITLE:

起業家から見たオープンイノベーションマネジメント：スタートアップによる提携相手選択と防御と学習に関する定性研究(Digest_要約)

AUTHOR(S):

羽田, 祥子

CITATION:

羽田, 祥子. 起業家から見たオープンイノベーションマネジメント：スタートアップによる提携相手選択と防御と学習に関する定性研究. 京都大学, 2021, 博士(経済学)

ISSUE DATE:

2021-03-23

URL:

<https://doi.org/10.14989/doctor.k22966>

RIGHT:

学位規則第9条第2項により要約公開; 許諾条件により要約は2022-03-20に公開

学位論文の要約

本研究は、新しい技術や知見を核として成長を目指すスタートアップが、オープンイノベーションにおいて既存大企業との関係をどのようにマネジメントしているのかを探求した質的研究である。関係性における不利益から自社を守るためにどのような防御や相手選択を行い、またそれらの知恵をどのように学習しているのかを具体的な論点としている。

日本のスタートアップ 41 社の 50 名の起業家への半構造化インタビューデータに対して、事前の理解を前提とする解釈学的立場を採用した質的テキスト分析の手法を用いた概念化を行っている。既存研究で理論ごとに説明された防御行動を網羅的に検討して理論間の相互関係を議論したことや、スタートアップ組織と不可分な個人である起業家の感情の側面に着目して提携相手選択を論じた点に独自性がある。

第 1 章における研究課題の提示に続き第 2 章で既存研究を検討した結果、スタートアップとオープンイノベーションについては外部能力を導入して活用するという大企業の視点で主に議論されていること、提携関係の一般性が重視されて起業家個人が組織の判断に影響を与える側面についてほとんど議論されていないこと、資源を依存する立場が強調されていること、専有可能性や情報の経済学、資源依存理論、ネットワーク理論等で説明された防御の網羅性や理論間の相互関係が十分に議論されていないことが分かった。

研究方法（第 3 章）に続く第 4 章において、個人としての起業家の存在がスタートアップ組織とは不可分であることや、起業家が感情を持つ個人であるという側面に着目することによって、スタートアップの提携相手選択における社会的・心理的側面を「覚悟」と「矜持」として概念化した。大企業が新事業を切り拓く覚悟を見極める目や、実際にリスクを負って新領域を開拓するスタートアップ側の矜持に対する大企業の態度を見定めるとともに、大企業にその提携相手としてふさわしい覚悟があるのかを問う心情が、相手選択基準として表れていることを議論した。オープンイノベーションにおいてスタートアップが主体的に相手を「選んでいる」ことを明示的に議論するとともに、組織コミットメント概念の援用によって提携相手選択の議論を深める可能性を示した。

第 5 章では、提携相手による不正盗用など非対称な関係性におけるリスクに対する防御メカニズムを概念化した。多くの起業家が工夫を凝らし知恵を組み合わせた防御行動をとっており、大企業への社会的信用の高さや起業家の社会的地位の低さという日本の制度環境に根差している可能性を指摘した。またスタートアップを弱い立場と説明する資源依存理論における根拠である大企業の豊富な資産がスピードを妨げる逆機能ともなって防御となる側面があることや、投資を「受ける」ことで投資側の行動を妨げて防御となる行動、「自身を」監視させることで逆に相手をガバナンスする行動など、同じ変数が理論間で異なるメカニズムとして説明されている状況を指摘し、理論間の相互関係を議論するとともに、動員可能な手段が限られる立場からの防御メカニズムを含めて実際に採用されている防御行動を網羅的に議論した。

そして第6章においては、相手選択や防御の知恵をどのように身につけたのか、オープンイノベーションに関する起業家の学習のプロセスを議論した。大企業との関係性における直接的な経験に直面した時の感情が行動を駆動して学習につながっていること、外部に原因を帰属させる負の感情が学習につながる行動を駆動していること、起業家とは異なる過去の経歴が状況的学習となって他者の経験からの学習を深めていることを議論した。

最後に第7章で、オープンイノベーションにおいてスタートアップがどのように既存大企業との関係に対処しているのかという問いへの答えとして、起業家個人の社会的・心理的側面が表れた相手選択や起業家の知恵が駆使された防御行動という関係性のマネジメントであり、そのような知恵を学習するにあたっては起業家の感情や状況性への理解が役割を果たしているということを示した。そして、大企業が有する豊富な補完資産という資源にスタートアップが依存するがゆえに弱いと議論されてきたその豊富な補完資産が逆機能となって弱みとなっている現象から、資源依存理論の前提とされてきた資源の価値の安定性への疑問を提示した。リソースベースビューにおいて重要とされる価値が外生的にのみ与えられるという問題と同様に、資源依存理論において依存を決定する資源の重要性に価値の変動や負債への転換という可能性があることを指摘して、資源の価値をベースとした資源依存の議論に問題が生じ得る可能性を指摘したことが、情報の経済学や資源依存理論において議論されてきた説明と異なる「逆ガバナンス」という防御行動の概念化とともに、本研究の理論的貢献である。